

Sport
Godzilla®

スポーツ ゴジラ®

第 62 号

無料



特集
トップアスリートのセカンドキャリア
第14回日本スポーツ学会大賞



スポーツ振興くじ助成事業

Sport
Godzilla®

スポーツゴジラ®

〔第62号〕

「ゴジラ」は東宝株式会社の登録商標です。
『スポーツゴジラ』は、日本スポーツ学会が
商標使用の許諾を受け、スポーツネット
ワークジャパンが発行しています。

- 2 | 第62号を発刊するにあたり 長田 渚左
- 特集■
- 「トップアスリートのセカンドキャリア」
- 4 | 引退後語る 取材・構成
首藤 正徳
長田 渚左
—— 国枝慎吾VS.村田諒太
- 16 | 山口香氏が語るセカンドキャリア 構成・写真
山内亮治
—— 女子柔道初の五輪メダリスト
- 26 | 第14回日本スポーツ学会大賞受賞記念講演
メジャー初登板から60年 —— 村上雅則 構成
阿部 雄輔
- 38 | 『走』第9回 玉木 正之
「走る」とは悪いことを意味する言葉か？
- 39 | 夢劇場『馬』No.34「沈黙は金？」 長田 渚左
- 40 | バックナンバーのご案内

南 伸坊 表紙のつぶやき 「金太郎は今の時代ならばトップアスリート。足柄山で熊と相撲を取ったり、マサカリでそこいらの巨木を伐ったりしていましたが、力を見込まれて取りたてられ、酒呑童子を成敗しました。ヒーローです」

スポーツネットワークジャパンHP <http://sportsnetworkjapan.com/>
バックナンバー第43号～60号はホームページからもお読みいただけます。

『スポーツゴジラ』は、種目を問わずスポーツそのものの魅力や
価値を語るスポーツ総合誌（フリーペーパー）です。

第62号を発売するにあたり

編集長 長田渚左



アスリートの引退後の人生は、精根込めてスポーツに打ち込んだ時間よりも、はるかに長い。セカンドキャリア、デュアルキャリア、キャリアアトランジション……言い方、考え方も多様で、スポーツゴジラでは、このテーマを継続的に取り上げてきた。

昨年、引退を表明した国枝慎吾氏と村田諒太氏の対談は、構想から約1年かけてようやく掲載の運びとなった。きっかけは2023年1月の日本車いすバスケットボール選手権大会。会場で第2回スポーツ学会大賞受賞者の国枝さんにお会いした。第13回の受賞者に選ばれた村田さんの表彰式と記念講演会が同月に行われることを伝えると「参加して村田さんの話を聞きたい」と目を輝かせた。ところが、講演会の3日前に国枝さんがSNSで引退を表明した

ため、当日は混乱を避けるために参加を見送った。その2カ月後に村田さんも引退を発表した。

世界の頂点を極めたアスリートが、偶然にも同じ時期に現役生活に幕を下ろした。2人はいったい第二の人生にどんな夢を思い描くのか。トップアスリート同士だからこそ、本音で語り合えることがあるはずだと、2人の対談を思い描き、NHKの特集番組との共同企画として実現した。引退後の苦悩と人生観がにじんだ深い内容に、10年、20年後の対談にも期待が膨らむ。また女性アスリートとしてトップを走り続けた柔道五輪メダリストの山口香氏には、経験と時代背景を踏まえてセカンドキャリアを語っていただいた。さらに第14回日本スポーツ学会大賞を受賞した日本人初のメジャーリーガーの村上雅則氏の記念講演も再録。第二の人生でなすべきことを教えていただいた。スポーツ選手だけではなく、私たち一般人の新たな人生の選択にも、ヒントが詰まった一冊になった気がします。

ご協賛およびご協力企業・団体



株式会社 御福 餅本家

人と社会を支える力



国土館大学

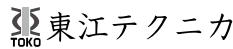


三井住友海上



JWCPE 日本女子体育大学

株式会社東美物流



株式会社 産経映画社



(順不同)

特集

トップアスリートの
セカンドキャリア

引退後を語る

国枝慎吾 VS. 村田諒太

取材・構成 首藤正徳
長岡渚彦

世界の頂点で一時代を築いた2人のトップアスリートが昨年、相次いで引退を表明した。車いすテニスでパラリンピックのシングルス3度優勝など数々の偉業を達成した国枝慎吾氏と、日本人ボクサーで初めてオリンピック金メダルとプロの世界タイトルを両方獲得した村田諒太氏。栄光の競技人生にピリオドを打って半年以上たった昨年11月、NHKの特集番組との共同企画で2人の対談が実現。引退決断の秘話から、現在の苦悩、そして未来について語り合った。夢をかなえたトップアスリートは、どんな第二の人生を思い描いているのか。スポーツゴジラ編集部追加取材も合わせて、2人の今に迫った。

国枝 慎吾 (くにえだ・しんご) 1984(昭59)年2月21日、千葉県柏市生まれ。9歳の時、脊髄腫瘍で下半身まひに。小6で車いすテニスを始め、06年に初の世界ランク1位。09年プロ転向。パラリンピックは5大会連続出場。シングルスは08年北京と12年ロンドン、21年東京で金3個で、車いすテニス男子最多。ダブルスでは04年アテネ金、08年北京と16年リオデジャネイロで銅。現行グランドスラムはシングルス28勝、ダブルス22勝の計50勝で、車いすテニス史上最多。年間グランドスラム達成5回。世界ランキング1位のまま23年1月に引退発表。

村田 諒太 (むらた・りょうた) 1986(昭61)年1月12日、奈良市生まれ。伏見中1年でボクシングを始め、東京都高(現京都広学館高)で高校5冠。東洋大で04年全日本選手権ミドル級で優勝など。11年世界選手権銀メダル、12年ロンドン五輪で日本人48年ぶりの金メダルを獲得。13年8月にプロデビューし、17年10月、WBA世界ミドル級王座を獲得し、日本人で初めて五輪金メダリストとしてプロの世界王者になった。2度目の防衛に失敗も、19年7月に王座奪回。22年4月にBF王者ゴロフキン(カザフスタン)との王座統一戦に9回TKO負け。23年3月に引退発表。現役時代は帝拳ジム所属。183㌢の右ファイター。

外見と休日

国枝 お久しぶりです。楽しみにしていました。

村田 ありがとうございます。よろしくお願ひします。顔、優しくなりましたね。

国枝 言われます。引退して1カ月くらいで言われましたね。顔が優しくなりました。あとは「やせた」。言われませんか？

村田 僕も顔は優しくなりましたって言われるんですよ。戦わなくなりましたからですかね。筋肉の張りみたいなものもなくなつて、人を威圧するようなものがなくなりましたね。そういうのテニスの選手でもあるんですね。

国枝 現役の時は眉間にしわを寄せて相手をにらむことも多いので、そういうところで顔の表情が変わつたんじゃないかなつて思いますね。(筋肉は)張りがなくなつた感じですね。

ところで生活の張りはどうですか？ 今まで練習

で1日が終わっていたのに、それがなくなつた心境は？

村田 やつと最近になつてさみしきとか、物足りなさを若干克服できたかなと思つているんですが、でもまだボクシングやれたらいいなとかも……最近も週1くらいで練習しているんですけど。

国枝 やつてます？ 一緒です。

村田 本当ですか。それは何を目的にですか？

国枝 一番はストレス解消ですね。引退して最初に車いすバスケット始めました。テニスを始める前に友達とやっていたんです。もともとスポーツが好きで競技を始めたので、今もどうしてもスポーツに興味があつてしまう。平日に働いている一般のサラリーマンが、土日にスポーツで汗を流すというのがすごく分かるようになりました。

ところで引退して一番つまらない日つて、何も無い日じゃないですか？ そんなことないですか？

村田 分かります。それこそ、はい。

国枝 現役の時って、何も無い日はいい休養の日だったじゃないですか。引退して何も無い日って、1日を無駄にしちゃうような感覚ってありません？

村田 アイデンティティーが確保されてないんですよ。ボクサーとして、世界チャンピオンとしてのアイデンティティーが確保されているから休みも休養なんですけど、それがなくなっちゃったら休みがただのダメな日になる。

アスリートの楽と苦

国枝 (引退後も) やっぱ悔いなく過ごしたいし、いろんなことにチャレンジしたいという気持ちはあります。だけどアスリートってめちゃくちゃ楽しいじゃないですか。目標を持つのが、僕もよく講演会とかで「目標を持つことの素晴らしさ」を話します。でも本当に引退するまで分からなかったのですが、何を目標にするかって結構難しい。目標を持つことの生き生きとした感じを知っているだけに、葛藤も大

きい。今、何が目標かというところ、目標を持つことが目標、という感じなんです。

村田 アスリートが楽ってめちゃくちゃ分かります。だって自分の得意なことをやっていればお金が稼げちゃうし、褒められるし、アイデンティティーとしては確実に担保されるし、肉体的な痛みや、心拍数が上がってゼーゼーするとかはあるけど、それ以外のところでは考えると、アスリートでいるほど楽なこととはなかったです。

国枝 そうですよ。本当にそれが、引退して、すぐ思ったこと。

村田 これ人に言われるとむかつくじゃないですか。アスリートでいるって楽だよねって。何が分かるんだと思うんですけど、わが事になると思いますよね。**国枝** 思いますよね。自分の中でも、アスリート時代のあの充実感を知っているから、引退して、同じとまではいかないまでも、やっぱり何かやりたいことがほしいというのが現状です。

無と褒美

村田 引退の一番の理由は何ですか？

国枝 体は結構痛んでいましたね。腰も3年以上、ボールも拾えないような状態になったりするくらいでした。そこが一番の理由です。あとは東京パラリンピックで金メダルを獲って、本当にそこを目指して7、8年間やってきたので、大会後は燃え尽きたな、引退したいなという心境でした。でもウィンブルドンだけ勝っていなかったので頑張つて、ウィンブルドンで勝った時に、コート上でチームのみんなと抱き合つて「引退だわ、これでいいわ」と。当然、身体にむち打つてできるところはあつたんですけど、何かを成し遂げたいという野心がなくなつた時に、果たして続けることが正解なのかどうかすごく悩みました。

村田 村田さんの引退の理由は何ですか？

村田 もうやる理由がなかったからです。ゴロフキ

ンという目標だった人とやって、自分がこれ以上ボクシングに求めるものがなければ、お金を稼いだところで、人の評価を気にしたところで、そんな移ろいやすくて不確かなものを追いかけるだけの人生つて馬鹿らしいと思つた時に、戦う理由をなくしました。

国枝 どんなタイミングで最終決断しましたか？

村田 僕はゴロフキンとの試合が決まつた瞬間からずっと決めていました。正直、2019年7月に世界タイトルを奪回した試合が、自分の中で唯一自信のあつた試合で、本当にやりたいボクシングができたので、これでもういいよと思つて。ゴロフキン戦は勝とうが負けようが、引退はしようと思つていました。だからその時点でもう負けてるんですね。本当にゴロフキンを踏み台にして次に行くんだという気持ちがあれば、多分、練習の内容も違つたと思います。だから負けるべくして負けた。最大の僕の褒美は、勝つことでも、お金でもなくて、ボクシン



グを終えられることだったと思うんですよ。だから試合が終わった瞬間、リング上でニヤツつて笑っているところがあるんです。あの顔は多分、どこかでホッと安心して自分が出てたんじゃないかと思えます。

ストレスとキャリア

国枝 僕が最終的に引退を決めたのは運転している

時でした。23年の1月3日、初富士を見て「登ったな」と「今度は下りよう」と。やはりその時だなど何となく悟りました。

話は変わりますが、コロナはキャリアに影響しましたか？

村田 逆にコロナの時期に2年数カ月間試合ができなかったことは、むしろキャリアの中で良かったなと思っっています。チャンピオンになるとか、成功することは経験できませんが、外的な要因で2年以上何回も試合を延期されるといいう経験は多分できない。

その経験ができたことは、自分の人生の中でも大きなキャリアだと思うので、自分にとってあの時期はネガティブではなくて、いいキャリアをくれたなという感じです。

国枝 自分は海外に遠征する競技なので入国だとか、精神的なストレスが相当ありました。ロシアとウクライナの戦争も、欧州に行くのに北極を回ったりして、プラス4、5時間になって、しんどいなって思

う時もありました。そういう外的なストレスもトータルで考えると、引退の決断にかかわっていると思うことがありますね。

ところで村田さんはまだやろうと思えばやれる？

村田 やれるんですけど、これからの自分の人生を考えたときに、例えば今はAmazonというすごく大きな資本も入っているので、ワンマッチで復帰すればお金を稼ぐことはできるとは思いますよ。でも所詮は期間限定じゃないですか。それをいくらやっても、結局どこかでタイムリミットが来る。そこに行くのは賢いとは思えないんです。だったら自分はその役に立てるような人材として、ボクシングではないところでも活躍できる人間になった方がいいというのがあって、これからの時間を戦うことに費やすより、未来のために使うという選択をします。

国枝さんはまた試合をしたいと思うことありますか？

国枝 はい。実際に週1回くらい練習すると、まああてられるんですよ。現役時代に打ちにくいコースもあつたけど、ノープレッシャーだと打てちゃう時がある。「打てるな」と。そもそも楽しくてテニスを始めたので、たまに試合したいなんて思う時もあるんですよ。最近「やりたいんだつたらすればいいじゃない」と思う自分がある。別に復帰というわけじゃなくて、ランキングを上げたり、世界を転戦するわけじゃないけど、練習の延長線上で試合をしたと思うのは自然な気持ちかなと思います。

長田 私からもお二人に少し質問させてください。引退した今、あらためて振り返って、スポーツでトップを極めて、一番養われたものは何でしょう？

国枝 自立心、決断力ですかね。自分で飛行機やホテルを予約して、ダブルスのパートナーを探して、大会の練習コートも確保して……基本的に全部自分でやらなきゃいけないスポーツなんです。そういう

う環境の中で、いかに自分一人で生きていくかという能力を身に付けさせてくれたと思うし、あと決断力に関してはコート上でどんな戦略で戦うのか、どのショットを選択するのか常に決断する。その意味ですごく決断力が養われたと思います。

村田 何だろうなあ。内省する心みたいなのはありますね。目の前の成し遂げたいことに一生懸命になる。一生懸命だからこそ省みて、内省する。そんな癖がついたのはよかったかな。あと（スポーツには）人生観が凝縮されていますよね。良い時もあれば悪い時もある。一つ一つの出来事に反応、リアクションしないといけない。（スポーツをやっている）短い期間に良い悪いが繰り返されるので、人生の縮図みたいなのがあります。人より早く、そういう経験をするようになるのが、ボクシングだけではなく、スポーツの良いところ、魅力でした。

長田 村田さんは自著で「自己肯定感を探す旅だった」とも語っています。

夢とゴール

村田 スポーツは自分と向き合うためのツールではない。ゴールがない、所詮スポーツですから。ゴールがないので、それをもって自分の価値とするのはもの凄く寂しいことだと思うんですよ。そうならないようにという心がけですよ。

長田 ところで夢を達成したアスリートは幸せになれるのか？ これは大命題だと思うのですが、いかがですか？

国枝 夢を達成したアスリートは幸せになれるか？ということ、実は結構現役時代にも考えました。勝てばその瞬間は幸せかもしれない。でも、結局プレッシャーはより強くなってくるわけで、勝たなければいけないというマインドになって、テニス界でメンタルヘルスみたいなこともよく言われます。成功と幸せは別にイコールじゃないんだろーなと思います。結構負けても楽しそうな人はいるじゃない



ですか。例えばお金を持っている人がイコール幸せかというと別にそうじゃないだろうし。

村田 国枝さんと同い年の二個上の兄がいるんですけど、金は全然ないんですけど、サーフィンが大好きで、日本中いろいろ回って、種子島が最高だと言って、種子島に引越して、サーフィンしながら生活していて、オレの幸せ度と比べると変わらないと

ころか、兄貴の方が上だなと思っちゃうところもある。

国枝 テニスを離れて、人生においてどっちが幸せかというのを考えると、あんな生き方もいいなって何となく思う時はありますね。だから幸せって別に成功とかそんなに関係してないんじゃないかって思います。

村田 ハッピーというと常にハッピーみたいな感じで思うんですけど、夢を叶えたら何もかも満たされずつとハッピーでいられるのかと言うと波がある。夢を叶えたら四六時中ハッピーな満足感に満ちあふれたような日々を生きていると思って、夢を叶えちゃうと、実はそうじゃなかったという不満が出たわけです。だから夢を叶えることが幸せで、夢が叶わないことが幸せじゃないと、簡単に言っただけじゃないと思う。幸せかどうか、自分はまだ答えが出ていないですね。人生なので、幸せになりたいとか、後悔のない人生を生きるために、これからがあると

思うので。

国枝 ところで引退してよく聞かれるのですが「これから何されるんですか?」。これ答えにくくないですか?

村田 分かります。今やっと終わったところなんだから言う。

国枝 「国枝これから何するんだ?」というのは皆さん気になるところかもしれないし、そこで僕が5年くらい「何も無い」という状態が続いたら、みんなを不安にさせてしまうかもしれないけど、そこは時間も気にしながらも、ゆっくり探したいなっと思っています。でも自分が、いかに生き生きできるか、楽しめるかということが一番の物差しですね。

村田 先日「40歳で不惑だよ。惑わないんだよ」って言われました。だから「村田くん、意外と時間ないんだよ。自分の道を決めるのは。とにかくやってみな。今やろうと思ってることをとにかくやれ」

って言われた瞬間、「そうだな、意外と時間ないな」と思っ、何かしら始めようと、始めるところからがスタートかなと思いはじめました。

国枝 そう。それこそ僕も1日もつたいなかったという気持ちになってしまふところもあるので、何かにチャレンジし続ける人生を歩み続けたいと思ってるし、その意味でもアメリカに行こうという気持ちになりました。

村田 アメリカに行くことが目的ではなくて、アメリカに行くことは、それこそツールで、人生にチャレンジしていくということが大前提としてあるんですね。

国枝 当然、引退してまだビジョンはないわけですよ。それこそテニスに代わる熱量のものはないかもしれない。それでも何かをやりたいと思える人生をこれからも送りたいと思う。その中でやりたいことを選択肢をもっと増やしていきたいのかなと。国内だったらコーチや大会運営も含めていくらでもあるかも

しれない。でも、より視野を広げるために、アメリカのテニス協会から話もあつたので、今年は1年アメリカでチャレンジしてみようと思つています。選手を教える過程で語学力もついてくると思うし、終わった後にいろんな選択肢がまた増える、やりたいことが見つかるというのも、今は期待しているところです。

村田 僕も今、まさにキャリアアトランジションの時期です。よく「T」字型人材って言いますよね。

国枝 どういうことですか？

村田 僕らつて「I」なんです。飛び抜けたものがある。飛び抜けたものがあるんだけど、一般教養だったり、世間をちゃんと見るところがなくて、狭い中で非常にバランスが悪い。つまり、みんなが得たい特殊なものを持つているけど、横線の人間としての幅が足りない。だから僕は社会をしつかり、広く知っていくという観点をもつと持つことが大事だと思つていて、土台となるところを広げて、その

上でもう一回、ボクシング界に戻ってくるのであれば、それこそ違う形で貢献できると思えますね。

国枝 すごく共感します。何かありますか？ ビジョン的なもの。ジム経営とか？

村田 後進の指導は僕の役割じゃない気がするなあ。教えることのスペシャリストは他にもいると思う。今まで築いてきた自分のキャリアをやっぱりうまく生かすべきじゃないかなと。名前だったり、発信力だったりとか、実績もあるので、それを生かすキャリアの方がいいだろうと思うんですけど、観点みないなものが少ないので、まずはその観点を広げるところからスタートしたい。国枝さんと同じように、何かを今探す旅のリスタートかなって感じがしますね。

ライスワークとライフワーク

長田 お二人は現役時代に引退後のプランを考えていましたか？

国枝 実は現役時代にも引退したら何をしようかと考

えていました。本当に考えても考えても出てこない
ので、これは引退しないと分からないなと思っ
たんです。それで今、引退して約1年たつてま
すけど、いまだに分からない。最初の3カ月は
どうしたものかと思つたし、本当に引退してよ
かつたのかなつて一瞬よぎつた時も結構あり
ました。でも今は随分と落ち着きました。先ほ
ど話した、サラリーマンが土日にスポーツする
ような感じに変わつてからは、スポーツとの付
き合い方、距離感を自分の中で見いだした部
分もあります。

村田 (現役時代に引退後のことは) 想像して
いなかったけど、今は悪くないつて感じですよ。
ちよつとしんどいなというアイデンティティ
の喪失時期もあつたんですけど、その時期に慣
れて。ただそれは安定的ではなくて、例えばボ
クシングの試合の解説に行つたりすると、「自分
の方がすげえ」とか「何でオレが解説してい
るんだろう」という気持ちになつたりする。でも
その気持ちが四六時中ではなくて、

動きがある。そんな感じの日々ですね。

長田 今も心に穴が開いているような感じ
ですか？
国枝 穴は開いていると思ひますよ。いろ
んな仕事をする中で時に埋まつたりするし、や
つぱり開いちやつてくる感覚も正直あります。
引退する時にユニクロの社長から「これから
どうする？」と言われて「講演の仕事とか」とい
う話をしたら、「それ全部副業だぞ」つて言わ
れたんです。本業を見つけないと人生つまらん
ぞつて。すぐグサツと胸に刺さつて、今でも心
に留めていきます。

村田 講演も解説も副業ではない。メイン
ジョブじゃない。言い方を変えるとライ
スワークであつて、ライフワークじゃない
ですね。何となくライフワークは失つてい
るかなという感じはしますね。

村田 我々、本当に一本のことをやりすぎ
たんですよ。このまま積み重ねていくも
ので生きていけるといへば生きていける
んだけど、それつてどうなん

だろうと思うわけです。10代の頃からテニスやボクシングをやってきて、その頃の熱みないな気持ちって、はつきり言ってもう持てないと思うんですよ。

国枝 いやだなあ。悲しいなあ。でもそれも分かります。

村田 みんな夢ってもつと先にあるのに、若くして叶ってしまつて。あと「セカンドキャリア」つて言葉。僕嫌いだったんです。人生一度きりなのに、なんだ二回みたいになって思つていて。その言葉を使うのは嫌だなと思つていたんですけど、今実際に引退して思うのは、本当にセカンドだなんて。リストアートでもいいし、いろんな言い方があると思いますけど、一回ある意味では区切りはついたのかなと思います。ピリオドみたいなのがポンと。

国枝 セカンドだなんて、それは思いますね。スポーツ選手はきつと通る道だと思ふし、それぞれがきつと悩みながら過ごしているんだらうなと、引退している方々をそういう目で見るようになりました。

見方が変わりました。

村田 大変恐縮ではあるんですが、国枝さんと対談させていたいただいて、あまりにも悩みの共通点というか、陥っているシチュエーションがすごく多くて、安心させられました。あの国枝慎吾が「ないよね目標」「今がそれ見つけに行く時間だよ」と、普通に悩んでいるということに対して、オレそんなんじゃないやダメだと思つていたけど、あ、いいんだみたいな、ちよつと安心させられました。本当にありがとうございます。

国枝 だからこそ今回、対談したかったです。きつと引退したアスリートはこのマインドになると思ふんですよ。特に成功されている方が、そこを去つた後の人生の歩み方は非常に難しいというか、悩むところもある。これからどうやって自分の人生を設計していくかというところは、一つ何か共有したかったので、今回の対談は僕の人生にとつてもすごくいい時間になりました。

特集

トップアスリートの
セカンドキャリア

山口香氏が語るセカンドキャリア

— 女子柔道初の五輪メダリスト

構成・写真 山内亮治

山口香(やまぐち・かおり)1964(昭39)年東京都生まれ。6歳から柔道を始め、13歳の時から全日本体重別10連覇。女子柔道のパイオニアとして活躍し、第3回世界女子柔道選手権(1984)で日本女子初の金メダル。ソウル五輪(1988)で銅メダル。引退後はJOC理事など要職を歴任。現在は筑波大学で教鞭をとる傍ら、スポーツの普及発展、ダイバーシティの推進に務めている。

外庄と競技

私が生まれたのは、最初の東京五輪が開催された1964年でした。柔道を始めたのは、テレビドラマの「姿三四郎」を見て、その姿に憧れたからです。でも当時は、「女の子に柔道なんてやらせてはダメ」と言われていた時代。そうやって柔道を断られた記憶がありますね。この言葉は男女差別というよりも、柔道場に男の子しかいなかった競技環境から生まれるように思います。男の子しかいない中で女の子ひとりだけ柔道を習うのは難しいんじゃないか。よく考えなさいと諭されたという言い方が正しいかもしれません。

そんな中、中学2年生の時に初めて女子の柔道大会が開催されました。そのきっかけが「外庄」です。64年の東京五輪では、柔道4階級のうち無差別級でオランダのアントン・ヘーシンクが神永昭夫を破り、金メダルを獲得しました。これは日本柔道界には大

ショックでしたが世界の柔道界にとっても大きな出来事だったと思います。日本が全階級を制覇しなかったことは、後に柔道が欧州に広まる要因になったのではないのでしょうか。そうして柔道が海外で広まり女性も関わり始める中で、「なぜ女性の世界選手権や五輪の女子柔道がないんだ？」という声がかかるようになったんです。その状況下で国際柔道連盟は選択に迫られ、世界5大陸のうち3大陸で女子の試合が始まれば女子柔道の世界選手権を開催すると決定したんです。

そして女子の世界選手権がいよいよ始まるとなり、「試合で勝てる選手」を発掘すべく1978年に女子の全日本選手権が開催されました。ちなみに、私は東京生まれ東京育ちだったので全日本選手権の会場にあたっては東京予選に出場したんです。4階級あるうちの一番軽い50キロ級。何人が予選に出たと思います？ たったの5人ですよ。だったらリーグ戦やれよって思いませんか？ しかし、それを2の山

と3の山から構成されるトーナメント方式にして、私はくじ運がよかったので前者のグループに入りました。「2つ勝てば優勝か」なんて思っていたら、なんと相手のひとりが体重オーバーでまさかの失格。1回勝ただけで全日本選手権への出場が叶いました。何が言いたいかというと、当時の女子柔道における競技人口はその程度だったということです。

とはいえ、試合を開催したことには大きな意味がありました。最初の東京予選こそ5人しかいなかった50キロ級の選手が、回を追うごとに出場者が増えていったんです。これは、試合が選手にとつていかに大切な目標になるかという事実を示しているように思います。そうして、現在の日本における女子柔道の競技人口は当時に比べ飛躍的に増加。日本の女子柔道が発展を遂げる中で、私自身も色々なチャンスをもらい今に至ります。

現役引退した年には大学で助手になり、それ以来ずっと大学教員のキャリアを歩んでいます。一方で、

解説者を務めたり、スポーツ以外のテレビ番組に出演したりと、タレントのような活動をしていた時期もありました。ではなぜ、タレントの道に進まなかったのか。やっぱり自分の居場所は、テレビの世界にはないんじゃないかという思いがありました。大学でのキャリアをしつかり積みながら、それ以外はやれる時にやろうというスタンスでした。女子柔道もまだまだ宣伝が必要だったので。これが引退直後の私のキャリアでした。

昭和の就職・平成の企業

若い人は知らないかもしれませんが、かつては高校や大学卒業後にスポーツを続ける場合、ほとんどの人は会社員になりました。企業に就職し、実業団に在籍するケースがほとんどだったわけです。これがどういふことかと言うと、引退後のキャリアがある意味で担保されていたという事実。競技から退いても居場所があった。自分が望めば、定年を迎える

まで所属先にいられた。例えば、東京五輪でヘーシ
ンクに敗れた神永さんは新日鉄の所属。現役引退後
は、そこで会社員をしながら柔道のコーチや全日本
柔道連盟の役員などをしていたんです。つまり、セ
ーフティネットが用意されていた。それが昭和の
時代です。

平成はどうだったか。私が現役引退した直後にバ
ブルが崩壊しました。リーマンショックもそうです
が、こうした大きな景気後退はとりわけチームスポ
ーツに大きな影響を及ぼしました。お金がかかるん
ですよ。雇っている人数が違う。そして、バブル崩
壊直後に起きたのが「ドミノ現象」。一つの企業が
チームを維持できないと手放したところ、他も皆そ
ろって右に倣えをしたんです。どこかが手放す瞬間
を見極めようとしていたんでしょうね。先陣を切る
のはなかなか勇気が要る一方で、一社でも大企業が
「スポーツはもういい」と言った瞬間、「じゃあうち
も」と相次いで撤退を表明しました。

かたや、この状況は日本のスポーツ界においてプ
ロ化を進めるきつかけにもなったと思います。会社
の業績に左右されるのではなく、プロ化させること
により自分たちで持続的なチーム運営を実現させて
いこう、そうした機運が高まりました。

スポイルと甘やかし

プロ化は競技力向上に寄与しました。世界でどん
どんレベルが向上していくのに伴い、トップクラス
で活躍するためには、なるべく小さいうちから競技
を始めさせることも必要になってきました。実際
に保護者の中には物心がつく以前の小さい時から子
どもにスポーツをさせている人もいますし、もう生
まれた頃から靴を履かせているって状況もあるので
はないかと思われます。そうして次第に、仕事をし
ながら競技にも取り組む実業団という環境が時代に
そぐわなくなっていきました。

このプロ化に伴う育成・強化開始の低年齢化には

いくつか弊害も存在します。一つは、義務教育段階から競技活動の方が優先されてしまう現実。子どもたちが学校に行けないわけではありませんが、行ったり行けなかったり。競技活動を優先すると学校を休むことが多くなるでしょうし、そうなると思強が遅れてしまい学校に行きたくなくなることもあるでしょう。もちろんサポート体制が整っている学校もあります。その状況はある意味で「スポイル」とも呼べます。

私たちが学生の頃はまさにスポイルされていたと思います。日本酒の一升瓶を片手に教授を訪ね「遠征に行つたので……」と単位をお願いすると、「しようがないな。勝つてきたのか？ メダルを見せろ」みたいな、そんなやり取りも通用した時代でした。つまり、授業に出ていないにもかかわらずアスリートだからと大人が現状を黙認し、見て見ぬふりを子どもたちを甘やかしていたわけです。

幼少期からスポーツに打ち込むことの弊害は他に

もあります。小さい頃からスポーツという狭い世界の中で長年過ごしていると「スポーツを嫌いな人がいるわけない」と思つてしまうんです。私は五輪に行く飛行機で他の乗客から「皆が五輪に入る人を応援しているわけじゃないのよ」と言われた記憶があります。五輪でこれから戦おうとしているにもかかわらず。そうした現実には確かにあるのに、世間とのギャップに気づけない。

勝利優先と一般社会

かと言つて、勝利が何よりも優先される世界になると非常に狭い価値観に陥りやすく抜け出しにくい。勝つてば官軍なんですから。五輪精神などと言つても、大会を終えた頃には「勝たなきゃダメだ」と心の底から思いますよ。だって、帰りの飛行機の座席など待遇に差が生まれるので。飛行機から降りる時でも、「メダリストの方が先に出られますので、皆さんはお待ちください」と案内されます。待つ

は構いませんが、メダリストへの扱いは盛り上がる一方、メダルを獲得していなければ「ありがとう」や「苦労様」と一言もかけられることなく静かに帰らざるを得ないんです。何事もなかったかのように、これが現実です。その状況を目の当たりにすると、「やつぱり勝たなきゃダメだな」と思うんです。石にかじりついてでも勝たなきゃダメだなと。それもまた五輪なんです。

また、指導者の中にはアスリートを社会から離す方がプラスになると考える人たちもいます。昔は、「男と付き合うな」「恋愛すると女は弱くなる」といったことや、髪を染めようものなら「色気づいたな。次は必ず負けるぞ」なんて言う人がいたくらいです。これは極端かもしれませんが、そうやってアスリートを世間から隔絶させスポーツの世界に閉じ込めようとする考えが指導者の間で今も一部残っています。

そのように甘やかされ社会から隔絶されていたと

しても、現役の間はアスリートに対しメディアは優しい。意外と嫌なことを聞いてこない。分かることだけ聞きますよってスタンスなんですけど、そういう状況下で育ったアスリートはいざ社会に出ていくとギャップを感じるんです。社会で暮らす誰もがスポーツを好きじゃない、オリンピックが嫌いな人もいるわけですから。スポーツ選手として活躍できる時期の長さは個人によって違うものの、絶頂期のトップアスリートとして活躍できる期間は残念ながら限られている。引退という“その時”は必ず訪れますし、そこではじめて自分が育ってきたスポーツ界と社会は違うのだと気づかされます。

では、競技の第一線から退くとどうなるのか。まずプレッシャーやストレスから解放されます。私の場合、「ようし、色んなことができるぞ」という気持ちで“したいこと”に片っ端から手を出していきましたね。英国への留学をはじめ、ネイルやパーマ、ファッションも色々とチャレンジしました。絶対に

髪を染めるぞと思っていたので染めてみましたが、「遅咲きの不良」や「ヤンキー」なんて言われて（笑い）。それでも自分のしたいことだったんです。次の日を考えなくても良いという点では、お酒の飲み方も変わりましたね。でも、やりたいことは3カ月でやり尽くしました。「これ以上、何がしたいだろう」、そんな心境になったのを覚えています。

「ファミリー」とコンプレックス

すると次に、何が起きたか？ 喪失感に襲われました。現役だった頃には目標があり応援してくれる人がいた、そうした全てが無くなる。さらに、気力も無くなります。仕事をしていたとしても、目の前ものものに向かつていく熱量が違います。孤独感にも襲われました。柔道は個人競技ですが、それまで周りにいてくれた人たちが「ファミリー」だったと実感するんです。ライバルであろうと、皆が自分とつってかけがえのない家族だったのだと。そういう

人たちが一気にいなくなってしまうた気がするんです。自分は何者なの……、一気にアイデンティティを失った気がしました。多くのアスリートは現役引退と同時にこうした状態に必ず陥るんです。

また引退後は、アスリートに対する社会の見方にも気づきます。典型的なのが、「スポーツ選手だった割には○○ですよね」という言葉。私の場合、「柔道やってた割には」の枕詞をよく耳にしました。「柔道やってた割にはまともなことをしゃべりますよね」なんて一言がその一例。他の大学教授が何か発言をしたとして、「いやー先生、さすがですな」なんていちいち言われるでしょうか？ これってつまり、評価がスポーツだけでできてきた事実を意味し、アスリートは強い先入観を持たれているってことなんです。そんな中で元アスリートが社会に出て行くのと、「所詮アスリート上がりだよな」という低評価の壁にも直面します。私は大学で教鞭を執っていますが、「ここでいかに努力しても認めてもらえない

のではないか」、そんなある種のコンプレックスに苛まれます。自信のある方もいらつしやるでしょうけど、良くも悪くも元アスリートは社会で「異質な存在」として捉えられています。

プロ化が進む現在は、引退イコール収入減にもなります。加えて、やりたいことが見つからないのも引退したアスリートが抱える大きな問題ですね。スポーツ以外にできることは少ないのに、なぜかプライドは高い。私の知り合いで、ある時に突然リストラされたパイロットの方がいます。その方は「僕って飛行機しか操縦できないんですよ」と仰るんです。「すごいじゃないですか」と返しても、「いや、飛行機しか運転できないんで」と言うばかりで、それ以上言葉が出なくて。スポーツ選手もこの方と実は近いところがありますよ。スポーツを取ったらお前は何ができるんだ、と。

では、日本ではキャリアアトランジション（セカンドキャリアへの移行）において多様な選択肢が用

意されているでしょうか。海外では、引退後に医者や弁護士、または起業家として活躍する元アスリートの存在をよく見聞きます。日本でも最近ではそうした選択肢が増えてきているように思います。例えば、元ラグビー選手の福岡堅樹さんが大学の医学部へ進学したことは大きく報じられました。とはいえ、その報道が何を意味しているかと言うと、海外に比べてそうしたキャリア形成の例が日本ではまだ少ないということなんです。

なぜなのか。スポーツは本来、社会の一部として存在しているのですが、スポーツは特別な世界なんだという感覚が指導者やアスリートの中には若干あるんです。現役の頃、「スポーツ界の常識は社会の非常識」とよく言われました。上意下達や問答無用、我慢と根性など。スポーツ界の本当はおかしいかもしれないことが実際に世間ではどう捉えられているのか、社会との出入りを繰り返し返さないとその答えにたどり着けない。もちろん「我慢と根性」など、

いつの時代にも一定程度は必要な要素がありますが、スポーツ界が何を大事だから残し、何を棄てていくのかという問いを放置し時代に合わせて進化していない可能性もあります。スポーツ界はこうした昭和な価値観を残したいんです。

強みと弱み

スポーツ選手が社会に出ようとすると際にアピールできるポイントは何でしょう。私が就活生だった頃は「従順」でした。我慢強い、根性があります、どこにでも行きます、何でもやります。そういう姿勢がアピールポイントでしたし、採用側もそうした人材を求めていた時代がありました。でも、現代だと人より我慢強く従順なのはAIやロボット。電気さえ与えておけば文句ひとつ言わず、ずっと働き続けてくれますから。じゃあ今、アスリートがそれに勝てますかってことなんです。

では、スポーツ選手の強みがどこにあるかという

と、緊張した場面でも局面を突破できる度胸や実行力に判断力、さらに柔軟な対応力ではないでしょうか。リーダーシップだって持ち併せています。我慢も根性もある、その上で何ができるかをこれからは示していかなければなりません。「我慢や根性だけなら、うちはいいんで」と言われてしまう可能性もありますし、この事実をスポーツ界が認めなければいけません。

キャリア教育についても話をしましょう。私たちが現役だった時代には、「退路を絶て」とよく言われました。引退後なんて考えているから中途半端なんだと。でも、この考え方は改める必要があります。というのも、自分に合ったキャリアを考えることって自己分析なんです。選手自身が自分と向き合い強みや弱みを自覚することで競技力も向上し、引退後のキャリア形成にもつながる。

また、指導者には選手にスポーツ界以外の人たちと交流を持ち、視野を広く持つ重要性を説いてもら

いたい。アスリートだから知らなくていいでは決してありません。社会や世界はどう動いていて、その情報をどうやって得ればいいのか。同年代が知っていることくらいはせめてキャッチしておく必要があるだろうと。

メディア関係者の姿勢も大事です。ジャーニーズや日本大学アメフト部のように、一度でも何か問題を起こそうものなら、そこまで叩く必要がありますか？ 起ころいそれまで平身低頭だったメディアからバッシングされますよね。このジェットコースターのよ様な現象は、スポーツ界にも当てはまります。だからこそ、私はメディアの人たちに言いたい。普段からアスリートに厳しい質問をしてくださいと。最初はきちんと答えられなくてもいい。そうすれば、そこで気づきを得られるんです。「あんなことを聞かれたけど答えられなかった。じゃあ、ネットで調べてみよう」などと。そのような気づきがなければ、選手にとって甘やかされる状態は続いてしまうので

はないかと危惧します。

未来と願い

すでに申し上げた通り、アスリートにとつての引退はいつか来ます。夢を追う、挑戦することは素晴らしい。でも、人生は長いという事実を念頭に、選手生活の終わりが来た時にどうするべきかを家族も交え考えておく必要があるでしょう。私がアスリートのセカンドキャリアについて考える際に一番の願いとしているのは、どんな道に進んでもスポーツしていたことを後悔しない人生を送るといふ未来です。あの時にスポーツをやっていた、だからこそ幸せな人生を送れているんだという実感をどのライフステージでも持つてほしい。そう思えるキャリアを築けるように、私たちはこれからも制度作りやサポートを続けていく必要があると考えています。

(本稿は2023年10月15日、東京・新宿区早稲田大学戸山キャンパスで開催された日本スポーツ学会主催第126回「スポーツを語り合う会」を元に構成しました)

第14回日本スポーツ学会大賞授賞記念講演

メジャー初登板から60年

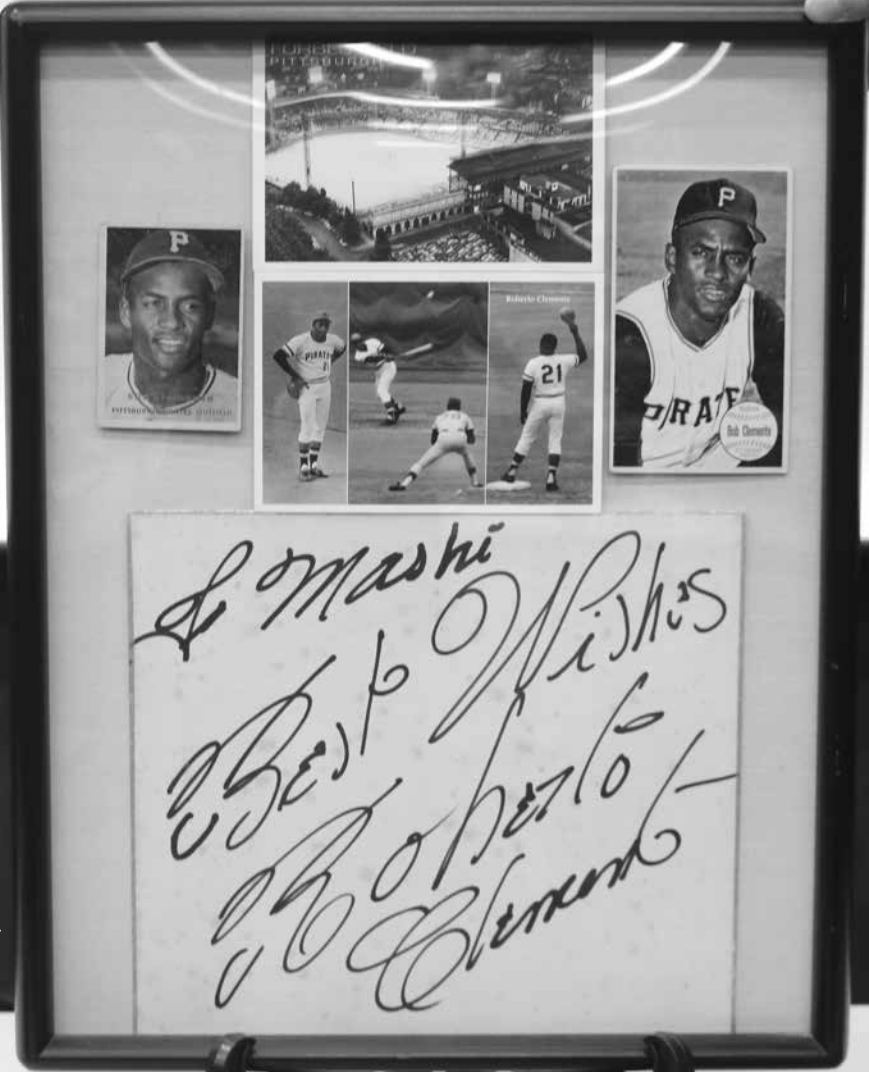
村上雅則

同会 長岡雅彦
構成 阿部雄輔



村上 雅則(むらかみ・まさのり)1944(昭19)年5月6日、山梨県生まれ。左投左打。大月市立猿橋中から法政二高(神奈川県)に進み、61(昭36)年春の選抜大会優勝に貢献。63(昭38)年、南海ホークス入団。64(昭39)年に渡米。SFジャイアンツの1Aフレズノでの活躍が認められメジャー昇格。同年9月1日、NYメッツ戦で初登板。日本人初のメジャーリーガーとして2シーズン通算で54試合登板、5勝1敗9Sの成績を残す。66(昭和41)年、日本プロ野球に復帰し、82(昭57)年まで南海、阪神、日本ハムでプレー。実働18年、566試合登板、103勝82敗30S。68(昭43)年には18勝4敗で最高勝率のタイトル獲得。引退後はNPB、MLB解説者・評論家、日本ハム、ダイエー、西武投手コーチ、SFジャイアンツ極東担当スカウトなどを歴任。99~2000(平11~12)年には日本初の硬式野球全日本女子チーム「チームエナージェン」初代監督を務めた。23(令5)年、長年の日米交流への貢献が認められ、ワシントンD.C.日米協会から「マーシャル・グリーン賞」受賞。

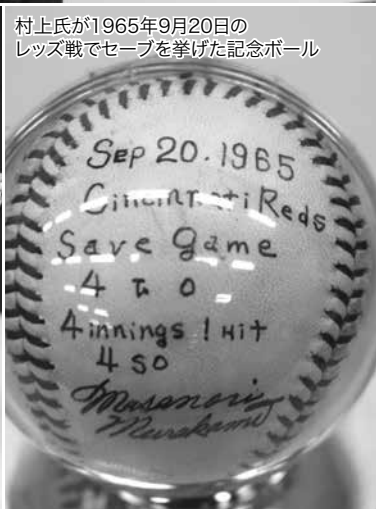
村上雅也選手の記念ボール
 色紙
 マット人形



村上氏メジャー在籍30年後のマッシュデーに配布されたブルヘッド人形



村上氏メジャー在籍50年後のメッシュデーに配布されたブルヘッド人形



村上氏が1965年9月20日のレッズ戦でセーブを挙げた記念ボール

長田 今から60年前の1964年9月1日、ニューヨークのシェイ・スタジアム。ニューヨーク・メッツ対サンフランシスコ・ジャイアンツ。4対0でメッツがリードして迎えた8回裏、ジャイアンツ村上雅則投手がブルペンからマウンドに向かいました。「Now Pitching, San Francisco Giants No.10, Masanori Murakami」。村上さん、マウンドへ向かう時、どんなお気持ちでしたか？

村上 レフトポールの外側にブルペンがあつて、ドアを開けてグラウンドに入るともうすごい人でした。4万人ぐらいでしょうか。2、3日前までマイナーの薄暗い照明の下、1000人も入れば今日はいっぱい入ったなあという球場で投げていましたし、私、気がちっちゃいもんですから？ アガツちゃいけないなあと思つて。当時、坂本九ちゃんの「スキヤキ・ソング」がアメリカでものすごく流行つてたんです。日本のタイトルは「上を向いて歩こう」ですね。「ラララ〜ララ」ってハミングしながらマウンドに歩

いて行つたら、何となく気持ちが落ち着きましたね。
長田 ジャイアンツは1対4でメッツに敗れましたが、村上さんは初登板で1イニングをきっちり無失点で抑えました。日本人がメジャーリーグで最初に投げたゲームです。大リーガー野茂英雄が誕生する31年前のことでした。

村上 最初に冗談言います。私も今年でやつと還暦を迎えました。メジャーに行つて還暦、という意味ですよ。本当の年齢は80歳、傘寿です。メジャー初登板は20歳の時ですから、日本人投手最年少の記録はまだ破られていません。そのうちに誰かが破つてくれると思いますけど。

思い出せば60年前の3月10日、南海ホークスに入団して2年目でした。その年に入った新人2人と羽田空港からパンアメリカン航空の飛行機で、ハワイ経由でサンフランシスコに向かいました。

その2年前の8月、南海の鶴岡一人監督が山梨県大月の自宅に私をスカウトに来てくれたんです。そ



1965年9月20日のレッズ戦でセーブを挙げた時の記念ボールを手に説明する村上氏

の時私は、「プロ野球には入りません。大学行ってやります」と断ったんですね。ところが帰り際に鶴岡さんが、「村上君、もし南海入ったら、アメリカに行かしてやるぞ」。そのひと言で、「じゃあ入ります」ということになったんです。

金曜日の夜8時からのテレビ番組「ローハイド」を見て、アメリカに憧れていたんです。アメリカなんてあの頃、普通は行けませんよ。往復の航空運賃がたしか30万円。当時高卒の月給が1万5000円から1万7000円ぐらいですから、飲まず食わずで1年半貯めないといけないんです。

上空から見たサンフランシスコは、おとぎの国みたいでした。黄色や赤やいろいろな色の壁がきれいでね。サンフランシスコに着いて、当時のジャイアンツのホームスタジアム、キャンドルステイックパークのマウンドで投げる真似をして、こんなところで投げられたらという思いは沸きましたね。

キャンプ地はアリゾナ州のカサグラnde。フェニ

ックスとツーソンの真ん中辺り。砂漠です。何もな
いんです。枯葉が舞ってる。ガラガラヘビやサソリ
がいるようなところですよ。おまけに通訳がないん
です。仕方ないから和英と英和の辞書持ってグラウ
ンドへ行つて、選手と話すんです。分からないけど
話す。文法とか考えないでどんどんしゃべっている
うちにだんだん会話ができるようになって、結構早
く選手たちとコミュニケーションできるようなり
ました。ヒッチハイクして20分ぐらい走ったところ
の町でお土産買ったたり、そういうのも楽しんでまし
た。何て言うか私、性格が合ってたんでしょね。

シーズンに入るとカリフォルニア州フレズノの1
Aのチームに加わって、登板機会にも恵まれました。
そして8月20日ぐらいですかね、クラブハウスでチ
ームメイトが話してたんです。メジャーでは9月1
日から25人の選手枠が40人枠になる。マイナーの選
手がいっぱいいますから、来年使えそうなのをメジ
ャーに上げて力を試すわけです。私のチームにはそ

のシーズンのホームラン王と盗塁王を獲った選手、
首位打者になった選手、18勝したピッチャーもいた
ので、その3人だろうなあという話なんですけど、誰
かが、「お前もあるかもな」と言うんですよ。私も
一応8月30日まで106イニング投げて防御率1.
78で、159の三振取ってましたから。私の投球を
スカウトが見てアルヴィン・ダーク監督に連絡し、
メジャー昇格となりました。

試合開始直前の球場で契約書にサイン

そして8月31日、フレズノからプロペラ機でサン
フランシスコに向かいました。ニューヨークへのチ
ケットとニューヨークのホテルの名前だけ聞いて。
サンフランシスコまで行つたけど、誰もいないんで
す。わあ困つたなあと思つて、飛行場でパイロット
の方に聞いて、どうにかニューヨークへの飛行機に
乗ることができた。

それでニューヨークに着いても誰もいないんです。

またパイロットの人に聞いて、どうにかバスでホテルに入った。カウンターに行ったら、「村上？ お前の名前はなによ」って言うんですね。フロントの隅の椅子に座って考えましたよ。約20分。どうするんだ。帰るチケットもないし、どうやって帰っていいかも分からない。俺、明日ハドソン川に沈んでるかもな。そしたら向こうから、「ヘイ、お前、ジャパニーズピッチャーか？」って、チームスタツッらしき人が来て、どうにかチェックインできました。部屋に入った。お腹空いたけど、何の連絡もありません。日本だとホテルでみんな食事をするんですが、アメリカのシステムは全然分かんない。しょうがないから一人でホテルのレストランに行きました。そしたらスパニッシュ系の選手が二人いて、「お前、ジャパニーズピッチャーか？ ここへ座れ」。チームのエース、ファン・マリシャルと遊撃手のホゼ・パガンでした。いやあエースだ、これはおごつてくれるなあと思って。メニューも分からないから、

「同じものをくれ」って。ローストビーフですよ。アメリカに来てそんな高い食事したことありませんでしたよ。食事終わったら割り勘でした。

翌日、球場で練習していたら、GMが、「この契約書にサインせえ」と。ところが父親から、向こうに行ったら変なもんサインしたらダメだぞと言われていたので、「サインしないよ」って言ったんです。メジャーでプレーするための契約書、あの頃の最低給7500ドルの契約書と、私は1Aから2A、3Aを飛び超えてメジャーになったから、プラス7500ドルのボーナスを支払うという契約書でした。私が「サインしない」って言うんで球団の人が慌ててスタンドから日本人呼んできて通訳してもらって、サインしたら、すぐにGMがナショナルリーグの事務所へ電話して。確認が取れたのはゲームが始まる15分前20分前でした。既にメンバー交換が終わっていた頃ですが、私の名前は入っていました。

判定に堂々と抗議する姿が日系人を感動させた

1年目は9試合、15イニング投げて防御率1・80で、来年は開幕からメジャーでやっていいって言われて契約書にサインして帰国しました。そうしたら日本とアメリカの二重契約だつて採めたんですね。シーズンが始まっても解決せずに、中百舌鳥球場つて大阪府堺の南海の二軍の本拠地で練習だけしていいんです。メジャーのコミッショナーが日本でのすべてのゲームに出てはダメだと、二軍のゲームもダメだと言うんで、練習だけ。やつと4月末か5月初めに鶴岡さんがいらして、「おい、村上、お前、アメリカ力けることになったぞ」と。「だけどなあ、来年は帰つてこいよ」と。

5月4日にサンフランシスコに行つて、球場でウイリー・メイズと一緒に写真を撮りました。660本のホームランを打つた名選手ですが、彼とは誕生日が同じ5月6日で、仲良かったんです。そんなふ

うに2年目のシーズンが始まりました。

印象的な出来事がありました。ドジャースタジアムでリリーフで出て、第1球投げました。ストライクですよ。ところがアンパイア、「ボール」つて言ったんです。キャッチャーの頭で見えなかつたかも分からないけどね。そこで私は3歩ぐらい行つて、両手を広げて、「What's?」つてやったんです。そしてたらアンパイアが、「×××××」。何言つてるか分からないんでマウンドに戻つて、センターを見てロージンバッグをポーンと投げたんです。

昔のロージンバッグつて、穴が開いたアンダーストッキングに滑り止めの粉を詰めて結わえたもんで、今のより大きいんですよ。それをポーンと放り投げたんです。まあ5m以上、6、7m行つたんじやないかなあ。それで、「しょうがねえ、投げるか」と思つて振り返つたら、アンパイアがそこまで来てるんです。キャッチャーが必死にアンパイアを押さええて、「彼はジャパニーズピッチャーで、英語も分か



1965年8月15日のフィリーズ戦で先発した村上氏は日系人スポンサーからフェアレディZを贈られた

んないし、アメリカのこともよく分かんないから勘弁してやれ」って言うって宥^{なだ}めてるんです。

当時テレビ中継はビジターチームの地元でだけ放送されていました。ホームチームのゲームは球場に来てご覧ください。ビジターの方は球場に来られないからテレビということですね。だからその試合

もサンフランシスコでテレビ中継されていました。ゲームの2、3日後、サンフランシスコのダウンタウンで日本レストランに入

ったら、日系人のおじいさんが飛んで来て、「ミスター・ムラカミ、ユーは良くやってくれたのう。俺たちは太平洋戦争中に財産を没収されて、収容所に連れて行かれた。戦争に負けた後はアメリカ人が黒と言えば黒、白と言えば白。決してNoと言えなかった。それをお前が野球でアメリカ人にNoと言ってくれた。俺たちは戦後20年の胸のつかえがとれた」。それくらいに当時の日系人は喜んでくれました。退場しとけば、これまた日本人第1号になったんですけどね。そんなこともありました。

メジャーでただ一度の先発登板も経験しました。8月15日、サンフランシスコでのフィリーズ戦。「マッシーデー」というイベントで、立ち上がりは良かったんです。1、2回を無失点。ところが1回2アウトから4連続三振を取って力んだせいか、3回にノックアウトされました。その時思いましたよ。8月15日、日本が戦争に負けた日に負けちゃうのかと。ノックアウトされて、シャワー浴びてスタンドに行

きました。そうしたら逆転してたんですよ。その時は二度も負けないで良かったなあと思いましたね。

その日は日系人のスポンサーがついて、車を一台プレゼントされました。ほんとはマスタングの予定だったんですが、私は日本人だからってフェアレディZをもらったんです。だけど私、まだ免許を持ってなかったんで、自分でお金をちょっと足して、田舎の家にセドリックを送ってもらいました。

「わが人生に悔いなし」とは言えないが

2年目のシーズンは45試合に登板して74イニング1／3を投げて防御率3・75、85奪三振、4勝1敗8セーブ。チームのナショナルリーグ2位にも貢献できたと思います。3年目もメジャーで投げたい気持ちはもちろんありましたが、鶴岡さんとの約束があつたので帰国したのです。

南海との契約書にサインをした後、1966年の

正月のことです。知人と行った横浜のバーで私は「Left My Heart in San Francisco」を歌ったんです。歌い始めたらずら涙が出てきた。知人が、「お前、そんなにアメリカに行きたいのか。だったら俺が親分に言つてやる」って言つてくれたんです。その人は鶴岡親分の友達でしたから。

でも私は断りました。なぜかと言うと、鶴岡さんが私をアメリカに行かせてくれたからです。南海に入団する時の約束、契約書には書かれていない、単なる口約束を守ってくれた。もちろん私がメジャーに上がるなんて誰も思っていなかったでしょうし、契約上は3年目も残れたはずですが、鶴岡さんを裏切りたくなかった。だから日本でやりますと。

ほんとに鶴岡さんには感謝しているし、大好きでした。入団した時も3カ月ほど、中京商業から来た林俊彦（当時。後に俊宏）つて左ピッチャーと一緒に鶴岡さんの家の2階に下宿させてもらつて。「お前ら、変な女に引つかканなよ」つてよく言われま

したよ。今でも足を向けて眠れない感じですよ。

でも私は、「わが人生悔いなし」とは言えないです。わが人生に悔いはある。色紙には、「人生一度」って書くんです。人生、たった一度きりでしょう。今の選手はいいなあと思いますよ。その人生一度をほんとに満喫している。力があればメジャーに挑戦できるし、失敗したら戻ってもこられる。それがすごく羨ましいですけど。

ロベルト・クレメンテから聞いたひと言とは

社会貢献活動を始めたのは1995年です。ゴルフコンペをやって寄付金を集めて、慈善団体等に寄付するというかたちなんですけど、きっかけはロベルト・クレメンテに言われた言葉でした。

クレメンテに会ったのは1965年の夏、ピッツバーグの球場でした。練習が終わって、あの頃ロッカールームにはまだクーラーがなかったので、暑いから上脱いで、バスタオルをかけてロッカーの外で

涼んでたんですよ。そしたら向こうから褐色の男が来るんですよ。「ヘイ、マッシー!」「お前、誰だ?」って聞いたたら、「俺はロベルト・クレメンテだ」と。それで彼は、「俺とメイズとどっちが上だ?」って聞くんです。「メイズの方が上だ」って言ったたら、「何を、この野郎」っていう顔をしましたがね。その年クレメンテはナショナルリーグの首位打者、一方メイズは52本塁打。シーズンのMVPはメイズでした。やっぱりメイズの方が上でしたね。

クレメンテとはロッカールームの外でしばらく話しました。彼が言っていたのは、「お前も大きくなったら、社会貢献活動をやってくれ」ということでした。「大きくなったら」って言ってましたが、「年取ったら」ってことだと解釈しましたけどね。

メジャーリーグは1971年、その年最も精神的に社会貢献活動を行った選手を表彰する「コミッシヨナー賞」を創設しました(第1回の受賞者はメイズ)。72年12月29日、ニカラグアで大震災が発生し



日本スポーツ学会大賞の授賞式で元阪神タイガース投手で公認会計士の奥村武博氏(右)から賞金の目録を贈呈された村上氏

アに飛んだ飛行機がカリブ海で墜落して亡くなり
ます。クレメンテが亡くなって半月ぐらいのうちに
コミッションは彼の名前を人々の記憶にとどめるた
め、この社会貢献の表彰を「ロベルト・クレメンテ
賞」と改めます。この決断とスピードは素晴らしい
なあと思います。

ます。クレメンテはアメリカ中から寄付を募って物資を集め、ニカラグアに運ぼうとします。そして12月31日にフロリダからニカラグ

そういうわけで、「大きくなったら社会貢献活動をやってくれ」というクレメンテの言葉は耳に残っていたんですが、実際に始めたのは1995年です。94年が私のメジャーデビュー30周年で、アメリカで記念のイベントを予定していたんですけど、メジャーリーグのストライキで1年延期して開催しました。帰国後の95年12月、チャリティゴルフ会を行いました。寄付先は知的障害者のスポーツ団体「スペシャルオリンピックス日本」でした。

最初は参加費だけを寄付に充てていたんですが、そのうちプロ野球やメジャーリーグの選手からサイン入りグッズなんかをもらってオークションをやったり、ビンゴゲームをやったりしてチャリティの規模を大きくしてきました。10年やって、11年目からは国連高等難民弁務官事務所(UNHCR)にも毎年寄付してきました。

その間いろいろなことがありました。2001年のニューヨークのツインタワーのテロの時は、マー

ティ・キーナート（その後東北楽天ゴールデンイーグルス初代GMに就任）に相談して、メジャーリーグのコミッショナーを通じて寄付をしました。2011年には東日本大震災がありました。翌年、メジャーリーグは開幕戦マリナーズ対アスレチックス2試合を東京ドームで組んでいました。この時は第1戦と第2戦に岩手県と福島県の少年野球の子供たちを50人ずつ、イチローが守るライトのスタンドに招待しました。

そういうことをして30年近くになります。私の活動を認めていただけるのだとしたら、それはひとえに私をサポートしてくれた人たちのおかげです。チャリテイゴルフに参加してくださる方、オークションに出すグッズやビンゴゲームの賞品を提供してくださる方。大月の友達とか、法政二高野球部の友達とかが、「お前、今年もやれよ」ってプッシュしてくれるから続けてこられました。とくに女房には挨拶状の文面や宛名書きなど事務局的な仕事を頼りつ

きりで、ほんとに感謝しております。

私らが入団した頃はチャリテイに限らず何かやる先輩に、「お前、派手なことやるな、偉そうに」って怒られたものですけど、今はそうじゃない。能登半島地震復興のためにダルビッシュが早速5000万円を寄付したり、大谷が全国の小学校にクラブ6万個を寄贈したり、千賀や菊池雄星なんかも社会貢献活動に熱心です。あの世に100億円持つていけませんからね。メジャーリーグにはどうやってお金を使うかを教えるロールモデルが大勢います。日本にも社会貢献に積極的な選手が増えてきましたね。私は傘寿、80歳でよれよれですから、もう去年でラストにしようかとも考えていたんです。でも元日にあんな大地震が起きるとね、ああ何かできたらいいなっと思ってしまっんですよ。

（本稿は2024年1月22日、東京・文京区筑波大学東京キャンパスで行われた「第14回日本スポーツ学会大賞」授賞記念講演を構成、再録したものです）

「走」第9回



「走る」とは悪いことを意味する言葉か？

玉木正之

先日、ある本を読んでいたら、「悪事千里を走る」という諺に出会った。

「悪い行いや、悪い評判はすぐに広く知れ渡る」との意味だが、そう言えば、「悪に走る」という言葉もあり（善に走る」とは言いませんよね）、「走る」という言葉は、あまり良い意味には使われていないように思えた。

そこで「ことわざ」を集めた辞典を調べてみると……「走れば蹟く」「走らんと欲すれば、まず転ぶことを学べ」と、走ること（急ぐこと）を諷める言葉が並んでいたり、「虫唾が走る」（気が悪いこと）「利に走る」（利益の追求ばかりする）「空耳を走らす」（聞いてるのに聞いて

ないふりをする）……と、良い意味の諺はあまり並んでいなかった。

日本語だけではない。英語にも「ウォーク・ドント・ランWalk, don't Run!」（歩け、走るな！＝急がば回れ）という諺がある。スペインにも「よく走る者は、すぐに止まる」（物事は忍耐強くゆっくり行え）との諺があり、アフリカのスワヒリ語にも「走ることは、必ずしもゴールに到着しない」（努力は結果につながる）という諺があるという。

古今東西を問わず、人間は（早く）走るよりも（堂々と）落ち着いているほうが「良し」と考えているようだ。哲学者ソクラテスは、弟子のカルミデスに向かってこう言った。

「早く動くほうが物静かなものより美しく見える。思慮ある生活も物静かではないはずだ」

オリンピックを生んだ都市国家の哲学者が「早く動く（走る）ことを、「美しく」「思慮ある生活」だと讃えたことは、我々現代人も注目すべきですね。



夢劇場『馬』

No.34



沈黙は金？

長田渚左

もし馬が人間の言葉をしゃべったら、競馬はともやつかいなものになるかもしれない。

馬が走りながら自ら展開を読んで、「今だ、突進するぞ！」と、闘争心をむき出しにして、騎手の制御を振り切って疾走するかもしれない。一方で「大事なのは次のレース。今日はそこそこ」と言いだして、全力で走ろうせず、歩行のみの馬が次々現れたり……現在の競馬とは雰囲気が一変しそうだ。

引退したイクイノックスがしゃべれたら、聞きたいことが山ほどある。

「まだまだレースで強さを誇示しなかったたのではないか？」「凱旋門賞に出たくなかったか？」「4歳になって急に強くなった理由は？」「効果的だったトレーニングは？」「競走馬の幸福とは？」

イクイノックスは2023年度のベストレースホースランキング世界1位に選ばれ、競走能力を示す客観的な指標で、日本調教馬歴代最高値を示した。

23年のジャパンカップに参戦した外国馬はフランスからのイレジン一頭だけだったにもかかわらず、海外からメディアが殺到したのは、イクイノックス見たさ……だと言われた。

世界最強の名のままでの引退だが、4歳という馬齢は人間に置き換えると、まだ20歳そこそこである。

人間のアスリートであれば早すぎる引退だろうし、セカンドキャリアは子孫を残すのみ。

彼は来世は馬ではなく、大谷翔平のようにアスリートの可能性を最大限に広げられる生きものになりたい……と、もし口がきけたなら言うのではないか？ いや、きつとそう言いそうな気がする。



バックナンバーのご案内

バックナンバーを、直接お申し込みいただけます。ご希望の号と冊数を明記し、送料分の切手を左記にお送りください。申し込み住所が変更になりました。

〒168-0063
杉並区和泉1-40-13-401
スポーツネットワークジャパン
『スポーツゴジラ』係

送料値上りのため、やむをえず変更いたします。

6冊まで 送料 500円
12冊まで 送料 1000円

※特集の内容は本誌巻末カラーページとホームページに記載しています。

【ホームページ】

<http://sportsnetworjapan.com/>

★お申し込みいただくとき『スポーツゴジラ』への感想もお書き添えいただけると幸いです。

次の夏号第63号は2024年6月

中旬刊行を予定しています。

また、バックナンバーは品切表示の号も左記の図書館でお読みにいただけます。ご利用ください。

●世田谷区八幡山・大宅壮一文庫
●世田谷区深沢・日体大世田谷キャンパス図書館

●港区広尾・東京都立中央図書館

●千代田区永田町・国立国会図書館

●港区芝・東京都人権プラザ図書館

●新宿区霞ヶ丘・日本スポーツ協会資料室

【理事】

五十嵐二葉（弁護士）／池井優（慶應義塾大学名誉教授）／伊藤順蔵（早稲田大学名誉教授）

／岡田匡令（淑徳大学名誉教授）／長田渚左（ノンフィクション作家）／笠原一也（日本オリピック・アカデミー名誉会長）／菊幸一（国士舘大学教授）／佐久間昇二（びあ株式会社取締役）／重村一（㈱ニッポン放送取締役相談役）／永井憲一（法政大学名誉教授）／山口香（筑波大学教授）／山口良治（京都工芸院高校ラグビー部総監督）

【事務局】

〒359-1192

埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

早稲田大学スポーツ科学部太田章研究室気付

皆様、ご存じですか？

スポーツゴジラは年4回春・夏・秋・冬の季刊で発行。

都営地下鉄・大江戸線・浅草線・三田線・新宿線の各駅、全国の大学102カ所に設置されています。

スポーツゴジラ®

2024年3月5日発行

第1巻第62号

無断転載・転売を禁じます

企画編集 スポーツネットワークジャパン

長田渚左・阿部雄輔・首藤正徳

波多野圭吾・西本祥子・江川卓実

山内亮治・鈴木希人

制作 有限会社ナトリック

印刷・製本 株式会社美松堂

発行 スポーツネットワークジャパン

お問い合わせは左記まで

特定非営利活動法人

スポーツネットワークジャパン

〒168-0063

杉並区和泉1-40-13-401